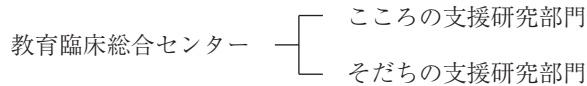


平成27年度 教育臨床総合センター 活動報告

はじめに

以下に示すように、本センターはこころの支援研究部門とそだちの支援研究部門という2つの部門を設置して活動を行っている。



それぞれの領域での独自性を尊重しながら行ってきた活動に加え、できるだけ協働できる事業を拡大し、今まで以上の教育臨床拠点体制を構築していくように努めてきた。

以下、両部門が連携して行った事業、こころの支援研究部門及びそだちの支援研究部門が独自に行った事業ごとに、活動成果を述べる。

I. 部門共通の活動

(1) 研究活動

*教育臨床総合センター紀要第5号に投稿された論文数は以下の通りである。

- こころの支援研究部門 投稿論文数 5本
- そだちの支援研究部門 投稿論文数 3本

*発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業に関する3プロジェクトの報告書やリーフレットは以下のとおりである。なお、これらの成果は、本大学教育臨床総合センターHPにもアップされているので、ご参照いただきたい。

a) 報告書

- 「発達障害を抱える児童も含めたすべての児童にとって、入学から卒業まで一貫して生活しやすい通常学級における支援方法の開発」(発達障害早期支援研究事業)五十嵐哲也責任編集
- 「児童、生徒、保護者、教員、地域住民も含めたすべてのひとにとっての発達障害の理解のために」(発達障害理解推進拠点事業)祖父江典人責任編集
- 「発達障害のライフデザイン支援 成果報告書」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業)三谷聖也責任編集

b) リーフレット

- 「発達障害のライフデザイン支援 基本篇」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業)三谷聖也責任編集
- 「発達障害のライフデザイン支援 事例篇」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業)三谷聖也責任編集
- 「発達障害のライフデザイン支援 連携支援篇」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業)三谷聖也責任編集
- 「発達障害教職員のための ―教えて、はじめ先生!―」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業)三谷聖也責任編集
- 「不登校と発達障害の理解と支援 ― ライフデザイン支援シートの活用」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業)三谷聖也責任編集
- 「発達障害の入り口支援 ― 学校における実践の一助として」(H27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業)三谷聖也責任編集
- 「『感覚』ってなんだろう?」(発達障害早期支援研究事業)五十嵐哲也責任編集

(2) その他の活動

- 臨床カフェ:教育未来館にて2回の交流会開催
「スマホと教育 ― 子どもにスマホの使い方をどう教えますか?」他
- SOBA:『SOBA活動報告書』第13号 2016年3月

(3) 公開講演会事業

本年度は、発達障害理解推進拠点事業との共同のもと、下記講演会を行った。本講演会の成果は、リーフレットとしてH28年度中に発刊され、HPにもアップされる予定である。

- 日 時 平成27年12月19日（土）15:00-18:00
- 場 所 愛知教育大学 教育未来館3階 多目的ホール
- 内 容 「発達障害を巡る現代社会シンポジウム」
挨拶 後藤ひとみ（愛知教育大学学長）
シンポジスト
榎本 和（特定医療法人共和会共和病院）：児童精神科医の立場から
下村美刈（愛知教育大学学校教育講座 教授）：病院臨床心理士の立場から
小崎 真（豊明市教育委員会指導主事）：現場教員の立場から
指定討論者
飯塚一裕（愛知教育大学障害児教育講座 講師）
弓巾信明（豊明市立豊明中学校 特別支援教育コーディネーター）

(4) SOBAの活動

- SOBA（Symposium of Bullying in Aichi）の概要
学生を主体としたボランティア団体であり、「いじめ」や不登校などにより弱い立場に置かれた子どもに寄り添う活動をめざしている。
- 例会（毎週火曜日）
子どもや若者同士で互いの問題を解決する「ピア・サポート」的活動について学習している。具体的テーマとして、発達障害のある子どもの支援、ソーシャルスキルやエンカウンターにかかわるコミュニケーションワークの実践など。
- しえんサロン（7月）
学生、教員、地域の学校・NPO関係者などが集った学習会を開催している。今年度は「個性の強いこどもを地域で支える会」代表の出口咲織氏を招き、発達障害のある子どもについて子育ての苦労、学校との関係や、NPOにおける親同士の支え合いについてお話をうかがい、子どもの支援や保護者とのかかわりについて学んだ。
- キッズクラブでのプログラム実施（1月）
刈谷市のNPO法人「子育て・子育てNPO スコップ」によって行われている子育て支援事業、「キッズクラブ」（子どもを対象とした市内での活動）において、工作とレクリエーションのプログラムを用意し、学生主体で実施した。

(5) 教育臨床カフェの活動

- 教育臨床カフェの概要
大学院教育学研究科学校教育臨床専攻の大学院生とSOBAのメンバーによる共同運営。
学生主体によるアクティブラーニングによる学びや知の交流の拠点づくりをめざし企画活動を実施。
心理教育や支援者支援という包括的な活動のテーマを掲げ、教育支援人材が学校教育にどのように貢献できるかを探求することを目的としている。
- 活動内容
教育臨床カフェ第1回
日時：2014年5月22日
場所：教育未来館2階多目的指導室
テーマ：スマホと教育 ― 子どもにスマホの使い方をどう教えますか？
参加者：13名
*本活動の様子はKATCH（ケーブルテレビ局）にて放送（2015年5月28日17:30～）
教育臨床カフェ第2回
日時：2015年11月11日
講師：飯塚一裕講師（障害児教育講座）

場所：教育未来館多目的ホール

テーマ：教室で使える発達障害入門

参加者：43名

*本活動は文部科学省平成27年度発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業の一環で開催

II. こころの支援研究部門

(1) センター協力員対象事例検討会

本事業は教育臨床総合センター・センター協力員を対象とした卒業後教育事業である。学校教育臨床専攻の修了生の約9割は、本専攻修了後、臨床心理士資格試験を受験し、資格を取得してスクールカウンセラーや児童心理司、医療、福祉、司法関係などの多岐にわたる心理臨床領域で就労をしている。現行の規定では臨床心理士資格は5年更新制であり、資格取得後も弛まぬ鍛錬を必須とするものである。本事業はこうした実情を鑑み卒業後教育活動を充実すべく、主に学校教育臨床専攻の修了生（教育臨床総合センター・センター協力員登録をした者も含む）を対象に、学内外の講師をコメンテーターとして招き年間10回実施される事例検討会である。

本検討会の世話人は同センター協力員、関雅樹氏、高橋元氏が担当し、顧問は教育臨床研究部門担当教員 廣瀬幸市准教授が担当をした。本事業は、臨床心理士の資質向上ならびに東海地方の教育医療機関をはじめとするさまざまな組織におけるメンタルヘルス向上に寄与する間接支援としても意義あるものと思われる。

第1回：27. 4. 24	コメンテーター	廣瀬幸市	(本学教育臨床学講座准教授)
第2回：27. 5. 22	コメンテーター	三谷聖也	(本学教育臨床学講座准教授)
第3回：27. 6. 26	コメンテーター	前田 章氏	(愛知学院大学学生相談室・臨床心理士)
第4回：27. 7. 24	コメンテーター	高橋蔵人氏	(西山クリニック・臨床心理士)
第5回：27. 9. 11	コメンテーター	山内恵理子氏	(京ヶ峰岡田病院・臨床心理士)
第6回：27. 10. 23	コメンテーター	石黒直生氏	(刈谷病院・臨床心理士)
第7回：27. 11. 27	コメンテーター	高橋蔵人氏	(西山クリニック・臨床心理士)
第8回：28. 1. 22	コメンテーター	三谷聖也	(本学教育臨床学講座准教授)
第9回：28. 2. 19	コメンテーター	山内恵理子氏	(京ヶ峰岡田病院・臨床心理士)
第10回：28. 3. 18	コメンテーター	廣瀬幸市	(本学教育臨床学講座准教授)

(2) 心理教育相談室スタッフ対象事例検討会

本事業は、教育臨床総合センター教育臨床研究部門の下位組織である心理教育相談室の相談室スタッフ対象の研修事業である。本事例検討会は心理教育相談室長原田宗忠講師を中心に心理教育相談室に関わる全相談室スタッフによって組織されており、本事例検討会への一定回数以上の参加が当相談室スタッフの登録の必要要件となっている。ここでは心理教育相談室の事例検討を通して心理教育相談活動の質的向上を目指すとともに、同相談室の枠組みやルールについてスタッフ間で共有を図っている。

第1回：27. 4. 18	コメンテーター	原田宗忠	(本学教育臨床学講座講師)
第2回：27. 6. 20	コメンテーター	祖父江典人	(本学教育臨床学講座教授)
第3回：27. 7. 25	コメンテーター	三谷聖也	(本学教育臨床学講座准教授)
第4回：27. 10. 10	コメンテーター	廣瀬幸市	(本学教育臨床学講座准教授)
第5回：27. 12. 5	コメンテーター	原田宗忠	(本学教育臨床学講座講師)

(3) リカレント教育に関する事業（内地留学生関連事業）

愛知県教育委員会との連携事業として内地留学生3名（愛知県総合教育センターの長期研修制度を利用）を受け入れており、当センターにて教育相談等に関する研修ならびに研究指導を行っている。本学への内地留学の期間は約1年間で、水木金は本学で研修・研究を行い、月火は愛知県総合教育センターにて相談活動を中心に行っている。本事業はこころの支援研究部門担当教員の廣瀬幸市准教授、同担当教員祖父江典人教授、松原正明客員准教授を中心に、教育臨床学講座の三谷聖也准教授、原田宗忠講師の協力を得て行われた。各内地留学生の氏名および研究テーマは以下の通りであった。本事業は愛知県における教員のリカレント教育ならびに教育相談の機能向上として意義があったと思われる。

- 重久 奈美 氏 「若手教員の悩みに関する考察」
- 吉野 直子 氏 「若手教員の悩みに関する考察」
- 加藤 珠枝 氏 「若手教員の悩みに関する考察」

加えて、愛知県総合教育センターとの共同研究「教育相談における校内支援体制に関する質的研究」の顧問アドバイザーを担当教員 廣瀬幸市准教授が担当した。

(4) 心理教育相談室における相談活動

心理教育相談室の相談活動の詳細は、pp85の「平成27年心理教育相談室活動報告」を参照のこと。

(5) アイリスパートナー派遣事業

平成19年度より学校教育臨床専攻臨床心理学コースの大学院生を不登校児童・生徒支援ならびに学級適応支援として各附属学校に派遣している。加えて平成22年度より豊明市教育委員会との共同事業として、豊明市内の小学校への派遣も実施している。

附属学校への派遣

附属岡崎小学校（大学院生 5 名）	<担当教員>祖父江典人教授
附属岡崎中学校（大学院生 2 名）	<担当教員>原田宗忠講師
附属名古屋小学校（大学院生 3 名）	<担当教員>祖父江典人教授

豊明市教育委員会との共同事業

豊明中央小学校（大学院生 3 名）	<担当教員>廣瀬幸市准教授
豊明小学校（大学院生 2 名）	<担当教員>三谷聖也准教授

本事業の成果や意義の学内外への発信

日本心理臨床学会第34回秋季大会にて（日時：平成27年9月18日～20日／会場：神戸国際会議場）において本実習にかかる大学院生によるポスター発表がなされた。

題目：『小学校における学級通信の在り方 ―学校臨床実習の活動から― 』

発表者：新井あゆか・玉衛 薫・白石 梓・牧島 京・祖父江典人・原田宗忠

(6) いじめ防止のための附属校への支援プロジェクト

平成24年度後期よりいじめの未然防止のために継続的アセスメント事業を附属学校と共同で実施している。昨年度も教育臨床学講座の原田宗忠講師の協力を得て、附属学校において3度のアンケート調査を実施し、クラス別にフィードバックを行った。また、附属学校内の心の健康推進連絡会において、調査全体の結果の報告と、事例検討を行った。

Ⅲ. そだちの支援研究部門

(1) 発達支援相談室における相談活動

平成25年度より年度登録制になり、初回面接は無料であるが、継続相談を希望する利用者は、年度登録料（3000円）を振り込んだ上で年度登録することになり、平成27年度は年度登録制3年目である。平成25年度は、障害児教育棟(現特別支援教育棟)の耐震工事のため夏季2ヵ月余りの休室を余儀なくされ、相談件数は56件（セッション総数792件）にとどまったが、平成26年度は相談件数68件（セッション総数1239件）、平成27年度は相談件数74件（セッション総数1382件）と順調な伸びを見せている。詳細については、後述の「平成27年度 発達支援相談室活動報告」を参考にされたい。また、グループプレイセラピー、アセスメント事業については、項を改めて下記に記す。

(2) グループプレイセラピー

発達支援相談室では平成21年12月より、対人関係・集団場面での問題を抱える子どもを対象としたグループプレイセラピーを開始した。平成27年度は平成27年5月～平成28年2月の期間に計12回実施している。

27年度グループプレイセラピーの参加対象児は10名で、全員が発達障害の診断を受けているか、もしくは発達

障害の傾向を指摘されている。対象児の年齢について、小学校2年生～6年生であり、彼らは通常の学級あるいは特別支援学級に在籍している。

相談室にセラピスト登録している特別支援学校教員養成課程や特別専攻科の学生が、スタッフとして対象児の担当や全体のプログラム進行などの役割を担っている。

なお対象児の保護者に対して、別室において教員によるグループディスカッション等を実施している。

(3) アセスメント事業

相談室に来談しているクライアント（多くはその保護者）や他機関からの依頼に基づき、発達検査や知能検査を実施した上で、クライアントのアセスメントを行っている。

相談室に来談するクライアントの多くが発達障害を有すると思われる子どもであるため、主にWISC-IV知能検査を実施している。なお検査実施の理由のほとんどが、「小学校や中学校における学業面の困難さ」である。

検査実施後は検査結果と所見を保護者に説明し、子どもの状態像の説明や関わり方のアドバイスなどを行う。また必要に応じて、他機関の紹介や、学校教員へのコンサルテーション、相談室における発達支援を実施している。

(4) 発達障害児への学校支援ボランティア派遣

平成18年度（当時障害児治療教育センターの事業）より引き続いて、発達障害児のための学校支援ボランティア派遣事業を行っている。

平成27年度は、近隣の小学校1校に8名の学生を派遣した。この事業に関連し、ボランティア実践をふりかえり、今後の支援に役立てるため、教員（吉岡恒生教授）の指導のもとでグループワークが計8回開催された。

(5) 研修活動

発達支援相談室の活動に携わる教員・セラピスト・学生セラピストが参加するケースカンファレンスを、金曜日午後5時40分～8時に行っている。平成27年度は計14回実施された。

(6) 社会貢献・地域連携活動

以下では、部門の担当教員（飯塚一裕講師・吉岡恒生教授）が実施した、学会発表や講演会、地域連携事業などについて主なものを記す。

飯塚講師

- ・ 6月7日（日）、9月6日（日）、12月6日（日）、3月6日（日） NHK子どもの発達相談会（NHK名古屋放送局） 講師
- ・ 6月13日（土）、9月19日（土） 平成27年度豊田市就学相談会（パルクとよた） 相談員
- ・ 6月24日（水）、2月9日（火） 愛知県立佐織特別支援学校 学校関係者評価委員会 評議員
- ・ 8月17日（月）～22日（土） 平成27年度佐賀県心理リハビリテーション研修会（佐賀県波戸岬少年自然の家） 研修会講師
- ・ 8月28日（金） 平成27年度海部地方現職教育研究 特別支援教育部会研修会（佐織特別支援学校） 講師
- ・ 9月2日（水）、10月21日（水）、11月18日（木） 碧南市就学支援委員会（碧南市役所） 委員
- ・ 11月4日（金） 特別支援教育巡回相談（岡崎市立生平小学校）
- ・ 1月20日（水） 碧南市特別支援教育連携協議会（碧南市役所） 委員
- ・ 2月5日（金） 愛知県特別支援教育推進計画（愛知・つながりプラン）「障害の特性に応じた指導に関する研究」研究発表会（愛知県立佐織特別支援学校） 助言者

吉岡教授

- ・ 4月21日（火）から月1回12回 刈谷市中央子育て支援センター「らっこちゃんルーム」 相談員・講師
- ・ 5月28日（木） 小学校入学に向けての座談会（NPO法人きらら） アドバイザー
- ・ 6月2日（木）、11月30日（月） 特別支援教育巡回訪問（刈谷市立富士松北小学校） 相談員
- ・ 7月8日（水）、2月26日（金） 平成27年度岡崎市特別支援連携協議会 会長
- ・ 7月21日（火）、11月26日（木） 平成27年度第1回西三河特別支援連携協議会（西三河総合庁舎） 会長
- ・ 7月29日（水） 教育相談発展講座「いじめ・不登校などの諸問題を考える」（愛知県総合教育センター） 講師

- 8月2日（日）「発達障害支援におけるタテの連携を考える」（平成27年度文部科学省委託事業発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業）（愛知教育大学教育未来館） コメンテーター
- 8月19日（水） 全附連東海地区研究協議会（附属岡崎小学校） 助言者
- 8月25日（火） 特別支援教育現職研修会（刈谷市立富士松北小学校） 講師
- 9月15日（火）， 3月15日（火） 岡崎市特別支援教育専門家チーム会議（岡崎市教育相談センター） 講師
- 9月25日（金） 愛知県総合教育センター特別支援教育相談事例会議 助言者
- 9月26日（土）， 10月24日（土） 専門家による教育相談会（岡崎市） 専門委員
- 10月2日（金）， 11月4日（水）， 12月2日（水） 岡崎市教育支援委員会（岡崎市総合学習センター） 委員
- 10月21日（水）， 12月4日（金） 特別支援教育巡回訪問（岡崎市立夏山小学校） 相談員
- 10月23日（金） 特別支援教育現職研修会（愛知県立春日井高等特別支援学校） 講師
- 11月4日（水）， 5日（木） 特別支援教育巡回訪問（岡崎市立常盤中学校） 相談員
- 11月6日（金） 附属特別支援学校特別支援教育研究協議会 助言者・共同研究者
- 11月27日（金） 豊明市特別支援教育現職研修会（豊明市役所） 講師
- 2月11日（木・祝） 第80回臨床心理士研修会（臨床心理士資格認定協会・ANAクラウンプラザホテル広島）
講師